

(電子メール施行)
農技第1246号
令和2年9月16日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和2年度病虫害発生予報第5号を發表します。

令和2年度病虫害発生予報 第5号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	トビイロウンカ	多	多
ダイズ	紫斑病	平年並	やや少
	立枯性病害	平年並	やや少
	べと病	平年並	やや少
	葉焼病	平年並	やや少
	ハスモンヨトウ	多	多
	吸実性カメムシ類	やや多	平年並
野菜共通	ハイマダラノメイガ	やや多	やや多
	ハスモンヨトウ	多	多
	シロイチモジヨトウ	多	多
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	やや多

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(9月12日から10月11日までの天候見通し)

令和2年9月10日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

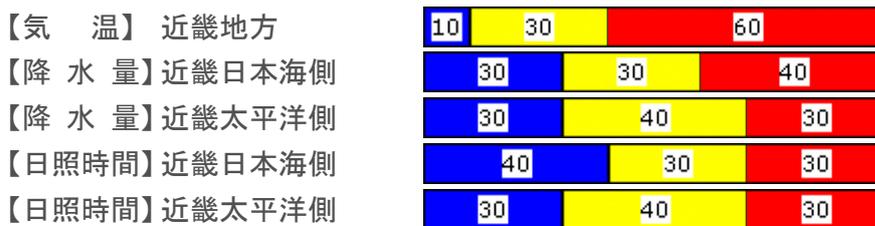
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

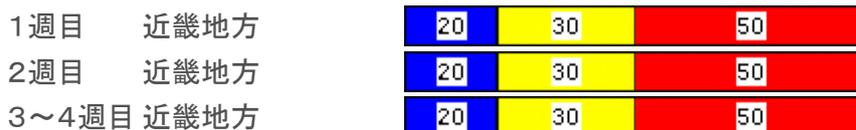
週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 9月12日(土)～10月11日(日)
- 1週目 : 9月12日(土)～ 9月18日(金)
- 2週目 : 9月19日(土)～ 9月25日(金)
- 3～4週目 : 9月26日(土)～10月 9日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【トビイロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：多
- (2) 予報の根拠
- ア 本種については、8月27日付で病虫害発生予察注意報第3号を発表した。さらに、9月16日付で病虫害発生予察警報第1号を発表して注意喚起を図っている。詳細についてはこれらを参考にすること(ともにHPに掲載)。
- イ 9月9日、10日に普通期栽培水稻を対象に実施した調査では、発生圃場率は100%(35/35圃場)であった。
- ウ イにおける払い落とし調査では、要防除水準(5頭以上/株)を超えている圃場は、37.1%(13/35圃場)であり、過去に警報を発表した平成26年の圃場率(15%)の2倍以上である。
- エ 県内の一部の圃場では、坪枯れが見られ始めており、要防除水準以下の圃場であっても、本種の増殖場所が圃場内で偏在していることを考えると、多くの圃場で収穫期までに坪枯れが発生する可能性が高い。
- オ 既に防除を実施した圃場においても、本種が生息する株元まで薬剤が届いていない場合や適期防除ができなかった場合は、十分な防除効果が得られていないおそれがある。
- (3) 防除上の留意点
- ア これまで本田での防除を実施していない圃場は、坪枯れが発生する可能性が高い。
- イ 圃場で株元を観察して、本種の群棲が認められたら被害の拡大を防ぐため、直ちに薬剤散布を行う。
- ウ 薬剤散布にあたって、粉剤、液剤は本種が生息する株元まで十分届くように散布する。粒剤は処理後の湛水状態を少なくとも数日間保つようにする。
- エ 収穫期に近い時期の薬剤散布となるので、特に使用する薬剤の収穫前日数をよく確認する。
- オ 防除薬剤は、病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を守ること。
- 病虫害・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)
<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

ダイズ

1 【紫斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 9月上旬の予察圃場では発病は確認されていないが、現地調査では一部の圃場で発病が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されており、本病は平年並の発生になると予想される。

2 【立枯性病害】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の予察圃場では発病は確認されていないが、現地調査では発病株率0.6%(平年値0.3%)と、一部の圃場で発病が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。本病は圃場の土壌水分が高くなることで発病が助長されるので、平年並の発生になると予想される。

(3) 防除上の留意点

立枯性病害は排水不良が発病を助長する。降雨があった場合に停滞水とならないように排水対策等を実施して、圃場管理に努める。

3 【べと病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の予察圃場では発病は確認されていないが、現地調査では発病株率0.5%(平年値1.3%)、発生圃場率7.5%(同10.4%)と、一部の圃場で発病が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されており、本病は平年並の発生になると予想される。

4 【葉焼病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の予察圃場では、発病株率2.0%(平年値4.2%)であった。現地調査では発生率0.6%(同0.8%)と、一部の圃場で発病が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、発病に好適であることから、本病は平年並の発生になると予想される。

5 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：多

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の現地調査では、白変葉が0.5カ所/a(平年値0.1カ所)、発生圃場率27.5%(同12.8%)であった。9月上旬の予察圃場では、幼虫が28頭/25株(平年値3.7頭)、白変葉が3カ所/a(同0.3カ所)と、いずれも平年より多い発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。本種の増殖に好適な条件が続くと考えられ、幼虫、白変葉の増加が予想される。

ウ 本種の防除上の留意点については後述する。野菜共通の項を参照。なお、本種

の発生状況の詳細は令和2年度病害虫発生予察注意報第4号（令和2年9月16日付）を参考にすること（HPに掲載）。

6 【吸実性カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 8月下旬の現地調査では発生密度は0.5頭/10株(平年値0.1頭)、発生圃場率27.5%(同22.6%)と、平年よりやや多い発生であった。
 - イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されており、着莢期を迎え、カメムシ類の活動がさらに活発になると考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- ア 着莢期に成虫が飛来し、吸汁や産卵をする。成虫は好適な餌がある場所を求めて移動するが、幼虫はそのまま滞在し、黄熟期まで加害し続けるため、薬剤散布は着莢期から10日間隔で2～3回実施する。
 - イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。
病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）
<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

野菜共通

1 【ハイマダラノメイガ】（アブラナ科野菜）

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 本種については、誘致植物^{※1}（クレオメ）での調査において早い時期から幼虫の寄生が確認され、平年より大幅に高い寄生花枝^{※2}率が確認されたことから、本年8月7日付で病害虫発生予察注意報第2号を発表している（HPに掲載）。
 - イ 加西市（農技センター内）で実施している調査では、寄生花枝率が8月の平均値80.8%(平年値23.3%)、9月第1週も88%(同29.8%)と、依然として非常に高い状態が続いている。
 - ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されており、本種の発生に好適な条件が続くと考えられる。今後栽培するアブラナ科野菜類では被害に注意する。
※1 対象とする害虫が好む植物で、発生状況を調べるために用いられる。
※2 クレオメは頂部に花が咲く分枝（花枝）を連続して展開する。ハイマダラノメイガの発生予察では、この花枝を調査単位としている。
- (3) 防除上の留意点
- ア 本種はアブラナ科野菜を特異的に加害する。
 - イ 発生盛期は10月まで続くことから、アブラナ科野菜を栽培する場合は、本種による加害が起こることを前提とした防除に努める。
 - ウ 幼虫が生長点を加害するため、被害を確認してからの防除では手遅れとなるので、育苗期や定植直後の予防的防除に努める。
 - エ 播種・定植時や育苗期に、粒剤や灌注で薬剤処理をした場合でも、天候等の条件により期待した防除効果が得られないこともあるので、本圃での薬剤防除の準

備をしておく。

オ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

2 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：多
(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップの調査において、加西市（農技センター内）では、誘殺数は8月末まではほぼ平年並であったが、9月以降急増し、9月1～2半旬の合計誘殺数は692頭（平年値453頭）であった。南あわじ市（淡路農技内）では、8月下旬から増加の傾向が見られ、9月以降急増し、9月1～2半旬の合計誘殺数は285.6頭（同59.3頭）であった。

イ ダイズでは、8月下旬以降、幼虫と白変葉の発生が確認されている（ダイズの項参照）。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いとされており、本種の発生に好適な条件が続くことから、野菜類での被害の発生に注意が必要である。

エ 本種の発生状況の詳細については、令和2年度病害虫発生予察注意報第4号（令和2年9月16日付）を参考にすること（HPに掲載）。

- (3) 防除上の留意点

ア 本種は、キャベツ、レタスをはじめとする多くの野菜類及び豆類を加害する。

イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

エ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

3 【シロイチモジヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：多
(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップの調査において、加西市（農技センター内）では、8月3半旬～9月2半旬の1か月の合計誘殺数は114頭（平年値111頭）と平年並であったが、過去の多発年には、9月に突発的に発生しており、今後誘殺数が急増する可能性がある。一方、南あわじ市（淡路農技内）では、8月下旬以降、誘殺数が急増し、同1か月の合計誘殺数は897.8頭（同358.4頭）と、平年より多い状態となっている。

イ キャベツ、ネギ、カーネーションの栽培圃場において、幼虫の発生を確認している。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いとされており、本種に好適な

状況が続くため、発生は多い状態で推移すると予想される。

エ 本種の発生状況の詳細については、令和2年度病害虫発生予察注意報第4号（令和2年9月16日付）を参考にすること（HPに掲載）。

(3) 防除上の留意点

ア 本種の加害作物は、ネギ、キャベツ、レタスをはじめとする多くの野菜類のほか、豆類、カーネーション等の花き類など広い範囲に及ぶ。

イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、定植直後の被害には特に注意すること。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

果樹共通

1 【果樹カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は表年（発生の多い年）に該当する。

イ フェロモントラップによる調査において、チャバネアオカメムシの8月2半旬～9月1半旬の1カ月の合計誘殺数は、加西市（農技センター内）では123.5頭（表年の平年値66.6頭）、朝来市では562.2頭（同151.1頭）と、表年としては平年よりやや多い状態である。

ウ 予察灯におけるチャバネアオカメムシの8月1カ月の合計誘殺数は、加西市では8.8頭（表年の平年値9.8頭）とほとんど発生が見られていない。朝来市では同時期で295.2頭（同680.6頭）と平年より少ないが、8月5半旬以降、増加の傾向がみられている。

エ 朝来市の予察灯ではツヤアオカメムシの誘殺数が8月以降急増しており、8月4～6半旬までの半月間の合計誘殺数は109頭（表年の平年値13.5頭）と平年より多い。

オ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いとされており、本種の活動に好適な状況が続くため、これから収穫期を迎えるナシ、カキ等の果実への加害が懸念される。

カ 本種の発生状況の詳細については、令和2年度病害虫発生予察防除情報第2号（令和2年9月16日付）を参考にすること（HPに掲載）。

(3) 防除上の留意点

ア 発生状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

- * この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
<http://hyogo-nourinsuisange.jp/chuo/bojo/index.htm>